

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	尚美学園大学
設置者名	学校法人尚美学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
芸術情報学部	情報表現学科	夜・通信	4	8	30	42	13	
	音楽表現学科	夜・通信			10	22	13	
	音楽応用学科	夜・通信			20	32	13	
	舞台表現学科	夜・通信			22	34	13	
	芸術表現学科	夜・通信		6	10	20	13	
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信			0	12	16	13
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	夜・通信		0	11	15	13	
(備考) 芸術情報学部芸術表現学科 令和8年4月学科の設置								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

尚美学園大学Webページ内<https://www.shobi-u.ac.jp/students/>の講義概要（シラバス検索）（<https://cps-portal.shobi-u.ac.jp/cpsmart/public/dashboard/main/ja/Simple/1900/3000120/wsl/SyllabusKensaku>）において、全文検索欄に「★実務家教員」を入力することで「実務経験のある教員等による授業科目」を抽出・閲覧することができる。また各科目のシラバスには「実務家教員_実務経験の内容欄」欄を設け、実務経験の内容を明示している。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名

(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	尚美学園大学
設置者名	学校法人尚美学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人尚美学園 Web ページ内で役員名簿を公表している。 https://www.shobigakuen.ac.jp/info.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2025 年 5 月 28 日～ 2028 年 3 月 31 日	学校運営担当
非常勤	大学教授	2025 年 5 月 28 日～ 2028 年 3 月 31 日	学校運営担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	尚美学園大学
設置者名	学校法人尚美学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) カリキュラムにより開講するすべての授業について、担当する授業担当教員に12月に作成を依頼する。授業計画書(シラバス)の内容は、大学設置基準及び中央教育審議会答申の用語集に記された内容(授業の方法及び内容、授業の回数と計画、到達目標、授業評価の方法や基準、準備学習や復習等の授業外での学習、教科書と参考文献、履修方法、実務経験のある教員の記載等)を網羅し、授業計画書(シラバス)作成の手引き並びに「教員ハンドブック」の要領に従って作成する。授業担当教員は授業全体をデザインし、明確な目標や内容を記して学生に提示する。学生は履修決定の参考、授業目標及び授業評価の確認や基準を理解すること、授業の準備や復習等に使用する。また、学生が授業評価を行う際の基準としても活用される。 3月中旬にホームページ上に公表する。	
授業計画書の公表方法	尚美学園大学 Web ページ(https://www.shobi-u.ac.jp/)にリンクを作成し、「構成概要(シラバス検索) (https://cps-portal.shobi-u.ac.jp/cpsmart/public/dashboard/main/ja/Simple/1900/3000120/wsl/SyllabusKensaku)」から授業計画書(シラバス)を検索できるようにしている。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 本学では、学修の評価方法並びに考査の実施について学則に定め、これに拠った授業計画書(シラバス)の成績評価の方法と基準により、厳格かつ適正な評価を行い、学期末総合点を算出(0～100点)している。総合点の100～60点を合格として単位を付与し、59点以下を不合格としている。また、原則出席回数が2/3に満たない場合、試験を欠席した場合及びレポート試験の未提出があった場合には点数評価をしない規定を設けている。成績評価の基準は100～90点(秀)、89～80点(優)、79～70点(良)、69～60点(可)、59点以下(不可)と到達度の段階を示している。合格となった場合のみカリキュラム及び授業計画書(シラバス)に示された単位を授与することとしている。また、授業毎の成績評価の分布状況を学生にフィードバックすることや授業アンケートを実施することで評価の適正性の維持を図っている。 学生に随時成績情報を開示し、カリキュラム内容と学修状況を理解させうえて、今期の授業計画書(シラバス)とともに、学修計画をたてるよう指導を行っている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) ●本学におけるGPAの内容(指標の算出方法) 各学期末に行われる成績評価(総合点)によって行う。 100～60点は合格、59点以下は不合格。カッコ内はグレードポイント(GP) 秀(4)100～90点、優(3)89～80点、良(2)79～70点、可(1)69～60点、不可(0)59点以下、失格・欠席(0) GPAの計算式：$GPA=(GP \times \text{単位数}) \div \text{履修単位数の総和}$ (GPAは、小数点第三位の値を四捨五入し、小数点第二位までとする。) ●本学におけるGPAの適切な実施状況 本学では春学期(前期)及び秋学期(後期)の期末試験実施終了後、それぞれ確定した成績をもとにGPA計算式により算出し、成績表に過去のGPAの数値の推移とともに記載し、学生にフィードバックしている。そのGPAの状況により、指導担当者(アドバイザー)より履修指導を実施している。また、GPAが基準を上回った場合には、履修上限単位数を22単位から26単位にする対応も行っている。 授業の成績分布状況は、学期毎に成績評価の比率(指標の比率)を公表している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	尚美学園大学 Web ページ内の「学生ハンドブック (https://www.shobi-u.ac.jp/handbook/)」で公表している。 また、尚美学園大学 Web ページ内の「情報公開—大学基本情報 (https://www.shobi-u.ac.jp/about/disclosure/)」で公表している。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学の建学の精神に基づき、各学部及び各学科の人材養成及び教育研究上の目的を達成するため、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を定め、尚美学園大学 Web ページ内教育方針 (https://www.shobi-u.ac.jp/about/policy/) に公表している。 ディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラムにおいて、必要な資質・能力が身に付けられる授業を配置している。年次進行で取得する科目を定めるとともに、求める資質・能力が明確になるよう、重要科目は必修とし、科目区分毎に選択必修を定めている。 また、半期(前期・後期)毎に単位取得状況を学生にフィードバックし、学生が資質・能力の修得状況を確認できるようにしている。 卒業(学位授与)は、本学学部に4年以上在学し、科目区分の条件を満たした上で、卒業要件124単位以上を修得した者について、教授会の議を経て、学長が認定している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	尚美学園大学 Web ページ内の「学生ハンドブック (https://www.shobi-u.ac.jp/handbook/)」で公表している。 また、尚美学園大学 Web ページ内の「3つのポリシー (https://www.shobi-u.ac.jp/about/policy/educational/)」で公表している。

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	尚美学園大学
設置者名	学校法人尚美学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校法人尚美学園 Web ページ内の事業報告書・財務状況等で公表している。 https://www.shobigakuen.ac.jp/info.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	芸術情報学部／総合政策学部／スポーツマネジメント学部
教育研究上の目的（公表方法：教育研究上の目的（公表方法：尚美学園大学 Web ページ内の「情報公開－大学基本情報（ https://www.shobi-u.ac.jp/about/disclosure/ ）」で公表している。）	（概要）
	●芸術情報学部 芸術と情報技術を駆使した多様な表現を追求し、情報表現及び芸術表現における幅広い分野にわたっての専門的、総合的能力を活かして時代を先導する人材を養成することを目的とする。 ・情報表現学科 社会の高度情報化において、従来の芸術教育に情報・メディアコミュニケーションを統合した先見的な教育研究を行うことを目的とする。 ・音楽表現学科 クラシック、ポップスの各分野における専門性の追求と同時に多角的な視座を養う教育研究を行うことを目的とする。 ・音楽応用学科 音楽ビジネスの世界における音楽制作と音楽産業の各分野の専門性の追求と同時に多角的な視座を養う教育研究を行うことを目的とする。 ・舞台表現学科 舞台における表現を実践的かつ理論的に追求し、舞台芸術の伝統を踏まえ、あらゆる視座から将来への可能性を広げる教育研究を行うことを目的とする。 ・芸術表現学科 パフォーマンス、クリエイト、ビジネスの各領域を実践的かつ論理的に追求し、デジタル社会で必要とされる新世代のエンタテインメントに関する教育研究を行うことを目的とする。 ●総合政策学部 現代社会におけるさまざまな政策課題を、政治、経済、法律、情報、文化などの諸分野にわたって研究し、問題発見－問題解決型の思考様式に基づいて政策立案できる人材を養成することを目的とする。 ・総合政策学科 社会科学の専門的知識を学び、国、地方自治体、企業、団体などの抱える政策課題を研究し、そのうえで問題解決を図ることができるような人材を養成することを目的とする。 ●スポーツマネジメント学部 ・スポーツマネジメント学科 多角的な視点からスポーツに対する理解を深め、現代社会における多様な課題を探究、解決できる人材を養成すること、また、マネジメントの視点から、スポーツにおける多様な価値を実践的、論理的に追求する教育研究を行うことを目的とする。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法： https://www.shobi-u.ac.jp/about/policy/educational/ ）	（概要）
	【各学部共通】 本学では、建学の精神である「智と愛」を基に、次に示す能力・資質を身につけて、本学の各学位プログラムの課程を修め、学則に定める単位を修得した者に学位を授与します。 「智」に関する資質・能力 教養・専門知識・技能の修得及びその実践力 「智」とは何かと問われれば、自立した社会人として生きていくために必要不可欠な幅広い

い知識・技能を有し、それを実社会で実践できる能力であるといえます。このような人材となるために、まず、教養及び各学位プログラムにおける専門的知識・技能を体系的に十分に理解し、修得していることが必要です。

それだけでなく、卒業後に社会に出れば、さまざまな問題に直面しますが、その際に立ち止まることなく、諸問題を乗り越えていくためには、修得した知識・技能を実社会において実践できることが求められます。

自己研鑽力（学び続ける力）

「智」を実現するためには、学生が卒業後も主体的に学び続けることが必要不可欠です。生涯を通じて自己研鑽に励むことができる人材は、いかなる社会・経済構造の変化が生じても、たくましく、しなやかに生きることができるでしょう。

「愛」に関する資質・能力

共感力（他者を思いやる力）・相互理解力

「愛」とは何かと問われれば、常に他者の立場に立って物事を考え行動できる共感力であるといえます。目の前の他者だけでなく、社会一般のさまざまな価値観を持つ人々に対し理解を示し、それを尊重することができる力ともいえます。共感力や相互理解力を身につけた先にあるのは、広く社会に対し貢献したいという真の想いであるといえるでしょう。このような共感力や相互理解力を持って行動することは、あらゆるものがデジタル化されていく時代において、「人間らしさ」の中心軸としてますます希少価値を帯びていくでしょう。

協調性・協働する力

社会においてさまざまな困難な課題に直面したときに、自分一人で対処することは容易ではありません。さまざまな問題に対処していくためには、協調性をもってコミュニケーションをとりながら、他者と協働できる力が求められます。

「智」及び「愛」の両方に関する資質・能力

知的好奇心

「智と愛」を実践する前提として、社会のさまざまな事柄や自分以外の他者に関し、興味・関心を持つことが必要です。また、生涯を通じて主体的に学び続ける人材となるためには、知的好奇心が旺盛であることが必要不可欠です。

・情報表現学科

学科固有の能力

DP 1-1：本質を見抜く力（審美眼）

鋭い観察力により、物事の本質を見抜く力

DP 1-2：創造力・発想力

既存概念にとらわれず、新たなアイディアや価値を生み出す発想力・創造力

DP 1-3：設計・構築力

発想力・創造力により生み出したアイディアをカタチにする力

DP 1-4：論理的思考力

複雑な事柄について筋道を立てて思考することができる力

DP 1-5：情報収集・分析能力

多様な情報があふれる現代社会において、必要な情報を取捨選択して収集し、分析する能力

DP 1-6：自己表現能力・発信力

独創的な表現力により、他者の心に働きかけることができる力

知識・技能

DP 2-1：基礎的知識・技能の修得

情報表現分野の学修の前提となる基礎的知識・技能の修得

DP 2-2：標準的専門知識・技能の修得

情報表現分野の標準的知識・技能の修得

DP 2-3：発展的専門知識・技能の修得

情報表現分野の発展的知識・技能の修得

DP 2-4 : 専門知識・技能の応用・実践力 情報表現分野の知識・技能を実社会において応用し、実践することができる力 DP 2-5 : 専門知識・技能の統合力 情報表現分野の知識・技能を組み合わせ統合し、新たな視点で物事を考える力 汎用能力 DP 3-1 : 文章読解力 文章を正確に読み解く力 DP 3-2 : 文章表現力 文章でわかりやすく正確に表現する力 DP 3-3 : 協調性・協働する力 協調性を持ってグループで活動できる力 DP 3-4 : 基礎的 IT スキル 社会で求められる基礎的な IT スキルの修得 DP 3-5 : プレゼンテーション能力 自分の考え等について、適切な方法によりわかりやすく簡潔に他者に伝える力 DP 3-6 : 異文化理解力・外国語能力 異文化に対する理解力や外国語能力の修得 態度・姿勢 DP 4-1 : 共感力・相互理解力 他者の立場に立って物事を考え行動できる力 DP 4-2 : 規律性・倫理観 自らを律し、責任感を持って行動する力 DP 4-3 : 自己研鑽力（学び続ける力） 生涯を通じて学び続け、自己研鑽に励むことができる力 ・芸術表現学科 以下の学修目標の修得を目指し編成された教育課程において、所定の科目を履修・修得したのに対して、学士（芸術情報）を授与します。 学科固有の能力 DP 1-1 : 本質を見抜く力（審美眼） 鋭い観察力により、物事の本質を見抜く力 DP 1-2 : 創造力・発想力 既存概念にとらわれず、新たなアイディアや価値を生み出す発想力・創造力 DP 1-3 : 設計・構築力 発想力・創造力により生み出したアイディアをカタチにし、グランドデザインや世界観を設計・構築する力 DP 1-4 : 論理的思考力 物事を体系的に整理して筋道を立て、矛盾なく考える力 DP 1-5 : 自己理解・自己実現力 芸術、情報、ビジネスの学びを通じて自らの強みを発見・自覚するとともに、自分のキャリア意識を形成し、それを実現する力 DP 1-6 : 独創的な芸術表現力 芸術表現を深く探求し専門性を高め、自分だけの独創的な表現行為により、他者の心に働きかけ感動を与える力 知識・技能 DP 2-1 : 基礎的知識・技能の修得 芸術表現分野の学修の前提となる基礎的知識・技能の修得 DP 2-2 : 標準的専門知識・技能の修得 芸術表現分野の標準的知識・技能の修得 DP 2-3 : 発展的専門知識・技能の修得 芸術表現分野の発展的知識・技能の修得

DP 2-4 : 専門知識・技能の応用・実践力

芸術表現分野の知識・技能を実社会において応用し、実践することができる力

DP 2-5 : 専門知識・技能の統合力

芸術表現分野の知識・技能を組み合わせる統合し、新たな視点で物事を考える力
汎用的能力

DP 3-1 : 文章読解力

文章を正確に読み解く力

DP 3-2 : 文章表現力

文章でわかりやすく正確に表現する力

DP 3-3 : 協調性・協働する力

協調性を持ってグループで活動できる力

DP 3-4 : 基礎的 IT スキル

社会で求められる基礎的な IT スキルの修得

DP 3-5 : プレゼンテーション能力

自分の考え等について、適切な方法によりわかりやすく簡潔に他者に伝える力

DP 3-6 : 異文化理解力・外国語能力

異文化に対する理解力や外国語能力の修得
態度・姿勢

DP 4-1 : 共感力・相互理解力

他者の立場に立って物事を考え行動できる力

DP 4-2 : 規律性・倫理観

自らを律し、責任感を持って行動する力

DP 4-3 : 自己研鑽力（学び続ける力）

生涯を通じて学び続け、自己研鑽に励むことができる力

・総合政策学科

以下の学修目標の修得を目指し編成された教育課程において、所定の科目を履修・修得したのに対して、学士（総合政策）を授与する。

学科固有の能力

DP 1-1 : 課題発見・解決能力

社会科学分野の学びを通じて、俯瞰的な視野で社会を見渡し課題を発見・解決できる能力

DP 1-2 : 論理的思考力

複雑な事柄について筋道を立てて思考することができる力

DP 1-3 : 情報収集・分析能力

多様な情報があふれる現代社会において、必要な情報を取捨選択して収集し分析する能力

DP 1-4 : 自己理解・自己実現力

キャリア関連科目の学びを通じて自らの強みを発見・自覚するとともにキャリア意識を形成し、それを実現する力

知識・技能

DP 2-1 : 基礎的知識・技能の修得

社会科学分野の専門的学修の前提となる基礎的知識・技能の修得

DP 2-2 : 標準的専門知識・技能の修得

社会科学分野の標準的知識・技能の修得

DP 2-3 : 発展的専門知識・技能の修得

社会科学分野の発展的知識・技能の修得

DP 2-4 : 専門知識・技能の応用・実践力

社会科学分野の知識・技能を実社会において応用し、実践することができる力

DP 2-5 : 専門知識・技能の統合力

社会科学分野の知識・技能を組み合わせる統合し、新たな視点で物事を考える力
汎用的能力

DP 3-1 : 文章読解力

文章を正確に読み解く力

DP 3-2 : 文章表現力

文章でわかりやすく正確に表現する力

DP 3-3 : 協調性・協働する力

協調性を持ってグループで活動できる力

DP 3-4 : 基礎的 IT スキル

社会で求められる基礎的な IT スキルの修得

DP 3-5 : プレゼンテーション能力

自分の考え等について、適切な方法によりわかりやすく簡潔に他者に伝える力

DP 3-6 : 異文化理解力・外国語能力

異文化に対する理解力や外国語能力の修得

態度・姿勢

DP 4-1 : 共感力・相互理解力

他者の立場に立って物事を考え行動できる力

DP 4-2 : 規律性・倫理観

自らを律し、責任感を持って行動する力

DP 4-3 : 自己研鑽力（学び続ける力）

生涯を通じて学び続け、自己研鑽に励むことができる力

・スポーツマネジメント学部

以下の学修目標の修得を目指し編成された教育課程において、所定の科目を履修・修得したのに対して、学士（スポーツマネジメント）を授与します。

学科固有の能力

DP 1-1 : 自己理解・自己実現力

スポーツマネジメント分野の学びを通じて自らの強みを発見・自覚するとともに、キャリア意識を形成して、それを実現する力

DP 1-2 : リーダーシップ・調整力

チームを主導するとともに意見の対立等を調整し、チームで物事を前に進める力

DP 1-3 : 情報収集・分析能力

多様な情報があふれる現代社会において、必要な情報を取捨選択して収集し、分析する能力

DP 1-4 : 課題発見能力

スポーツマネジメント分野の学びを通じて、俯瞰的な視野で社会を見渡し、課題を発見できる能力

DP 1-5 : 課題解決能力

スポーツマネジメント分野の学びを通じて、発見した課題を解決する能力

知識・技能

DP 2-1 : 基礎的知識・技能の修得

スポーツマネジメント分野における基礎的知識・技能の修得

DP 2-2 : 標準的専門知識・技能の修得

スポーツマネジメント分野におけるビジネス、産業、健康、科学それぞれについての標準的な知識・技能の修得

DP 2-3 : 発展的専門知識・技能の修得

スポーツマネジメント分野におけるビジネス、産業、健康、科学それぞれについての発展的な知識・技能の修得

DP 2-4 : 専門知識・技能の応用・実践力

スポーツマネジメント分野の知識・技能を実社会において応用し、実践することができる力

DP 2-5 : 専門知識・技能の統合力

スポーツマネジメント分野の知識・技能を組み合わせる統合し、新たな視点で物事を考え

る力 汎用的能力 DP 3-1 : 文章読解力 文章を正確に読み解く力 DP 3-2 : 文章表現力 文章でわかりやすく正確に表現する力 DP 3-3 : 協調性・協働する力 協調性を持ってグループで活動できる力 DP 3-4 : 基礎的 IT スキル 社会で求められる基礎的な IT スキルの修得 DP 3-5 : プレゼンテーション能力 自分の考え等について、適切な方法によりわかりやすく簡潔に他者に伝える力 DP 3-6 : 異文化理解力・外国語能力 異文化に対する理解力や外国語能力の修得 姿勢・態度 DP 4-1 : 共感力・相互理解力 他者の立場に立って物事を考え行動できる力 DP 4-2 : 規律性・倫理観 自らを律し、責任感を持って行動する力 DP 4-3 : 自己研鑽力（学び続ける力） 生涯を通じて学び続け、自己研鑽に励むことができる力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.shobi-u.ac.jp/about/policy/educational/）
（概要） 【各学部共通】 本学では、各学部学科の人材養成の目的及び学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、教養科目、専門科目及びその他の必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講します。 各学部学科のカリキュラムとそれを構成する各授業科目の関連性をカリキュラム・マップにおいて示して体系的カリキュラムを編成するとともに、その順序性やレベルを示す履修系統図、科目の学問分野、難易度、授業形態等を示す科目ナンバリングを作成することで、4年間の学びの全体像を分かりやすく明示します。 教育内容、教育方法、学修成果の評価については次のように定めます。 教育内容 1. 教養教育 教養教育は、専門教育に向けての基盤作りのために基礎的な知識・技術を学ぶことだけでなく、社会人として最低限必要な社会人基礎力を養成する場でもあります。すなわち、本学では、教養科目について、専門教育を学ぶ前の基礎的な教育を行う場としてだけでなく、出口に向けて卒業後、社会人として当然に社会から求められる汎用的能力を養成する場としても捉えており、このような意味で本学の教養科目は2つの機能を有しています。教養科目は、現代社会の教養、スポーツ、教養芸術、情報技術力、キャリア及び異文化理解力の6つの科目区分で編成されており、芸術情報学部情報表現学科・芸術表現学科では24単位以上、総合政策学部総合政策学科では26単位以上、スポーツマネジメント学部スポーツマネジメント学科では30単位以上修得することとなっています。 2. 専門教育 専門教育は、各学部学科のディプロマ・ポリシーに掲げる能力・資質を修得するため、専門分野の教育内容を体系的に学べるよう編成されています。 3. 免許・資格取得のための教育 教員免許や国家資格等を円滑に取得できるカリキュラムが編成されています。 4. 全学オープン選択科目 専門性をより深く追究するとともに、分野横断型教育を実施するために、所属学科の専門

科目だけでなく、他学部他学科の専門科目を全学オープン選択科目として 24 単位まで履修可能であり、卒業要件である 124 単位以上に含むことができます。

5. キャリア教育

キャリア教育は、社会人基礎力を養成するキャリア科目と職業意識の形成を促すためのインターンシップ科目で編成されています。

6. 語学教育（英語、日本語教育）

国際社会において必要な語学力と知識を養い、異文化間におけるコミュニケーション力を養成することを目的として編成されています。また、外国人留学生のための日本語教育では、確実な日本語能力を付けられるよう授業科目が編成されています。

教育方法

(1) 講義、演習、実習

教養科目及び専門科目では、教育内容や学生の理解度に合わせて講義科目、演習科目、実験・実習科目の組み合わせにより教育を行います。

(2) カリキュラムマップ・履修系統図・科目ナンバリング

全ての学科ごとにカリキュラムマップ、履修系統図及び科目ナンバリングを作成し、提供することになっています。カリキュラムマップは、各授業科目とディプロマ・ポリシーとの関係性を示したものであり、体系的な教育課程の編成を可能とするとともに、学生が伸ばしたい能力・資質により履修する科目を選択できるように整理したものです。履修系統図は教育課程全体を俯瞰し、科目を学修していく順序、科目と科目の関連性や内容の順序性を表したものです。科目ナンバリングは、各科目に番号を付すことで、科目の学問分野、難易度、授業形態、授業形式等を示すものです。いずれも高い学修効果を目指し、体系的な教育課程の編成のために作成するものです。

(3) アクティブ・ラーニング

グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを取り入れたアクティブ・ラーニング形式の授業を積極的に取り入れ、学生が主体的な学修態度で授業に臨むことで、教育内容をより深く理解し、また、社会人として必要とされる汎用的能力を修得することが可能となります。

教育評価

(1) 学修成果の評価方法

学修成果の評価方法は、科目ごとのシラバスにおいて具体的に示しています。シラバスでは各授業科目の達成目標を示し、達成目標に対応した成績評価基準を定めるとともに、予め示された成績評価方法により試験や課題提出等を行い、科目達成度の評価が行われます。

(2) 学修の到達度と評価

本学学則に定める単位を修得した者には、卒業が認定されます。卒業に必要な単位は、教養科目及び所属学科の専門科目（専門基礎科目、専門発展科目等）を履修して修得します。

・情報表現学科

芸術情報学部情報表現学科では、次の方針でカリキュラムを編成します。

カリキュラム編成の方針

CP1-1：表現行為の前提として、物事をよく観察し、本質を見抜く審美眼を養成する教育内容及び教育手法を採用する。

CP1-2：独創的なアイデアや新たな価値を生み出す発想力・創造力を育むため、さまざまな表現方法の持つ意義や制作物の解釈等の学びを通じて、学生一人ひとりの個性や自由を伸ばす教育を重視する。

CP1-3：発想力や創造力により生み出したアイデアをカタチにする力を育むため、アウトプット重視の教育手法を採用する。

CP1-4：課題解決のために、多様な情報の中から必要な情報を収集し、それを分析して論理的な説明ができる力を育むため、データサイエンス等の情報分野を広く扱う科目を展開する。

CP2-1：情報表現分野の基礎～発展的知識・技能を修得し、実社会でそれらを実践しているように、社会とのつながりを重視した学修が可能なカリキュラムを展開する。

CP2-2：情報表現分野の基礎～発展的知識・技能を修得し、それらを統合することで新たな視点で物事を捉え、それを広く社会に対し表現するなど、単なる知識・技能の修得にとどまらない幅広い学修を可能とするカリキュラムを展開する。

CP3：社会人として当然に求められる汎用的能力を育むために、教養科目及び学科専門科目を通じて、文章読解力、文章表現力、協調性・協働する力、基礎的 IT スキル、プレゼンテーション能力、異文化理解力・外国語能力等の汎用的能力の養成を意識した教育内容及び教育手法を採用する。

CP4：本学の建学の精神である「智と愛」の下、生涯を通じて学び続ける力を育成するために、学生の主体的学修態度を促すアクティブ・ラーニング等の教育手法を積極的に採用する。また、他者への共感力を持って行動できる高い人間性を育むために、グループワークでの学修やオフ・キャンパスでの学修を充実させ、他者と協働する機会を積極的に設ける。

教育内容

・1年次では、専門科目のうち情報基礎科目である「コンピュータ基礎論」を必修とし、情報表現の専門的な学修に向けた基礎的な知識・技能を育成する。また、専門科目の「クロスオーバー学習 A・B」を必修とし、情報表現分野の知識・技能を組み合わせ統合する、すなわち、情報表現分野の各専門分野をクロスオーバーさせて、新たな視点を獲得し、独創的なアイデアや価値を生み出す力を育むための準備学修を行う。情報基礎科目、情報、音響・映像・照明、CG・美術、WEB 応用、人間、ゲームから構成される専門科目では、学生の主体的学修態度を促すため、多くの科目でアクティブ・ラーニングによる授業を行う。また、学生の主体性を尊重し、コースに縛られず、専門科目及び学部共通科目は必修である「コンピュータ基礎論」を除き、選択科目として展開する。

・2年次では、学科専門科目の「プレゼミナール A・B」を必修とし、情報表現分野の基礎的な専門知識・技能の確認を行うとともに、専門知識・技能を組み合わせ統合する力や実社会において応用する力を育成する。

・3年次では、専門科目の「ゼミナール」を必修とし、4年次の「卒業研究」に向け専門的知識・技能を深めるとともに、応用力及び統合力の養成を行う。専門科目のうちキャリア科目である「インターンシップⅡ」では、学生の興味のある業界での就業体験を可能とする。

・4年次では、専門科目で必修科目である「卒業研究」において、情報表現の専門的知識・技能及び学科固有の DP である能力を総動員し、自分だけの独創性のある創作物の制作、または、研究論文を執筆し、4年間の学修の集大成とする。

教育方法

演習科目であるゼミナールだけでなく、講義科目においても、学生の主体的学修態度を促すためにアクティブ・ラーニングの教育手法を積極的に採用する。

・芸術表現学科

芸術情報学部芸術表現学科では、次の方針でカリキュラムを編成します。

カリキュラム編成の方針

CP1-1：表現行為の前提として、物事をよく観察し、本質を見抜く審美眼を養成する教育内容及び教育手法を採用する。

CP1-2：独創的なアイデアや新たな価値を生み出す発想力や創造力を育むため、芸術作品や表現行為の持つ社会的意義やその解釈等を学ぶことを通じて、学生一人ひとりの個性豊かな飛躍知を育む教育内容や教育方法を積極的に取り入れる。

CP1-3：発想力や創造力により生み出したアイデアをカタチにし、価値のあるモノとして設計・構築する力を育むため、学科専門科目では、抽象⇄具体を行き来する思考技法を用いて、自分の頭で考え抜き、それをアウトプットする学修が可能な教育内容や教育方法を積極的に取り入れる。

CP1-4：課題解決等のため、多様な情報の中から必要な情報を収集し、それを分析して論理的な説明ができる力を育むため、データサイエンス等の情報系科目やマーケティング等を扱う経営学系科目を展開する。

CP1-5：芸術表現の専門性を深く探求し、自分だけの独創的な表現行為を追求できる科目を展開する。

CP2-1：芸術表現分野の基礎～発展的知識・技能を修得し、実社会でそれらを実践してけるように、社会とのつながりを重視した学修を可能とするカリキュラムを展開する。

CP2-2：芸術表現分野の基礎～発展的知識・技能を修得し、芸術・ビジネス・情報を統合することで新たなアイディアを生み出すなど、単なる知識・技能の修得にとどまらない幅広い学修を可能とするカリキュラムを展開する。

CP2-3：芸術表現分野の基礎～発展的知識・技能を修得し、各分野の専門性をより深く探求し、専門性を高めることが可能な芸術専修科目を展開する。

CP3：社会人として当然に求められる汎用的能力を育むために、教養科目及び学科専門科目を通じて、文章読解力、文章表現力、協調性・協働する力、基礎的 IT スキル、プレゼンテーション能力、異文化理解力・外国語能力等の汎用的能力の養成を意識した教育内容及び教育手法を採用する。

CP4：本学の建学の精神である「智と愛」の下、生涯を通じて学び続ける力を育成するために、学生の主体的学修態度を促すアクティブ・ラーニング等の教育手法を積極的に採用する。また、他者への共感力を持って行動できる高い人間性を育むために、グループワークでの学修やオフ・キャンパスでの学修を充実させ、他者と協働する機会を積極的に設ける。

教育内容

・1年次では、専門科目のうち基礎科目である「文章作成演習Ⅰ」を必修とし、在学中の専門科目の学修は勿論のこと、卒業後も不可欠な能力である文章リテラシーを修得する。また、ゼミナール科目である「基礎演習A・B」を必修とし、ディスカッションやグループワーク等のアクティブ・ラーニングを取り入れ汎用的能力を育むとともに、芸術表現分野の学修の前提となる基礎的知識・技能を修得する。学部共通科目、芸術基礎科目及び芸術表現基本科目（情報活用、ビジネス、芸術応用）から成る学科専門科目では、学生の主体的学修態度を促すため、多くの科目でアクティブ・ラーニングによる授業を行う。また、一部の必修科目を除き、学生の主体性を尊重し、選択科目として幅広く展開する。

・2年次では、専門科目のうち基礎科目である「メディア論」「Web ビジネス研究」「経営学概論」「マーケティング論」を必修とし、社会における芸術をはじめとした表現行為の意義やそれが社会に与える影響、表現活動をめぐるビジネスの意義や役割等を学び、また、ゼミナール科目である「基礎演習C・D」を必修とし、ディスカッションやグループワーク等のアクティブ・ラーニングを取り入れ汎用的能力を育むとともに、芸術、情報、ビジネスの学びを通じて自らの強みを発見・自覚し、早期のキャリア意識を醸成することを目指す。

なお、オーディションに合格した学生は、2年次以降、学科専門科目のうち芸術表現専修科目において、各分野の芸術表現をより深く探求し、専門性を高める。

・3年次では、専門科目のうち基礎科目である「文章作成演習Ⅱ」を必修とし、卒業研究や就職活動で求められる文章表現力を学び、また、専門科目のうちゼミナール科目である「ゼミナールA・B」を必修とし、4年次の「卒業研究」に向け専門的知識・技能を深めるとともに、応用力及び統合力の養成を行う。専門科目のうちキャリア科目である「キャリアプランニングA・B」では、卒業後のキャリアについて具体的に考え、言語化することを目指す。

・4年次では、学科専門科目のうちゼミナール科目で必修科目でもある「卒業研究」においては、芸術表現の専門的知識・技能及び学科固有のDPである能力を総動員し、自分だけの独創性のある創作物の制作、または、研究論文を執筆し、4年間の学修の集大成とする。

教育方法

演習科目であるゼミナールだけでなく、講義科目においても、学生の主体的学修態度を促すためにアクティブ・ラーニングの教育手法を積極的に採用する。

・総合政策学科

総合政策学部では、次の方針でカリキュラムを編成します。

カリキュラム編成の方針

CP1-1：情報収集・分析能力を前提とした現代社会における課題発見・課題解決能力を養成するために、地域と連携した課題解決型（PBL 型）学習を実施する科目を充実させたカリキュラムを展開する。

CP1-2：学科専門科目では、知識の定着だけでなく、論理的思考力を養成するために基本科目及び展開科目の両方において、自分の頭で考え、順序だてて結論を導く練習となるような課題を課す授業科目を多く展開する。

CP1-3：自らの強みを発見し、それを基に早期のキャリア意識を形成できるように、1・2年次の必修である演習科目やキャリア関連科目を通して、自己理解が可能となる教育内容及び教育手法を採用する。

CP2-1：社会科学分野の基礎～発展的知識・技能を修得し、実社会でそれらを実践しているように、社会とのつながりを重視した学修を可能とするカリキュラムを展開する。

CP2-2：社会科学分野の基礎～発展的知識・技能を修得し、それらを統合することで新たな視点で社会課題を発見し、広く社会一般に対して問題提起ができるなど、単なる知識・技能の修得にとどまらない幅広い学修を可能とするカリキュラムを展開する。

CP3：社会人として当然に求められる汎用的能力を育むために、教養科目及び学科専門科目を通じて、文章読解力、文章表現力、協調性・協働する力、基礎的 IT スキル、プレゼンテーション力、異文化理解力・外国語能力等の汎用的能力の養成を意識した教育内容及び教育手法を採用する。

CP4：本学の建学の精神である「智と愛」の下、生涯を通じて学び続ける力を育成するために、学生の主体的学修態度を促すアクティブ・ラーニング等の教育手法を積極的に採用する。また、他者への共感力を持って行動できる高い人間性を育むために、グループワークでの学修やオフ・キャンパスでの学修を充実させ、他者と協働する機会を積極的に設ける。

教育内容

・1年次では、学科専門科目のうち基本科目基礎科目である「日本語リテラシーⅠ・Ⅱ」を必修とし、在学中の専門科目の学修は勿論のこと、卒業後も不可欠な能力である文章リテラシーを修得する。また、同様に学科専門科目のうち基本科目基礎科目である「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を必修とし、社会科学を学ぶ準備段階として基礎的な知識・技能を身につける。また、基礎的な専門科目を1年次より幅広く配置しており、教養科目の履修と併せて、初年次教育を中心としたカリキュラムを展開する。

公務員志望者には、公務員試験対策として、1年次より段階的体系的なカリキュラムを展開する。

・2年次では、引き続き基礎的な専門科目を多く配置している。具体的には、学科専門科目基本科目として「法律・政治」、「経済・経営」、「社会・コミュニケーション」、「キャリア」、「ゼミナール」に区分される。

このうち「ゼミナール」である「コース演習Ⅰ・Ⅱ」を必修とし、社会科学分野の基礎的な専門知識・技能の確認を行うとともに、双方向性のある授業手法を用いて専門知識の定着を図る。それだけにとどまらず、「コース演習」では、早期のキャリア意識を醸成できるように、学生自身が自らと向き合う時間を設け、自らの強みを発見・自覚する契機となるような授業内容を実施し、3年次以降の学修の充実を図る。

・3年次では、標準的または発展的な専門科目を幅広く配置している。

このうち、「ゼミナール」である「総合演習Ⅰ・Ⅱ」または「キャリア演習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目とし、「総合演習Ⅰ・Ⅱ」では、4年次の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」に向け専門的知識・技能を深めるとともに、応用力及び統合力の養成を行う。他方、「キャリア演習Ⅰ・Ⅱ」では、基礎的専門知識・技能の確認を行うとともに、社会との接続を意識した汎用的能力の実践を軸に双方向の授業を行う。

また、学生が卒業後に進みたい業種の企業や自治体等でのインターンシップを実施して、汎用的能力の実践や専門的知識・技能の実践を行う。他方、学内でのボランティア活動や、川越市またはその周辺市内でのボランティア活動を行うことで、オフ・キャンパスでの学修の経験により、共感力、規律性、自己研鑽力の養成を行う。

さらに、課題解決型（PBL 型）学習を行う科目を配置し、グループワークや学外の人との関わりから社会性を育むとともに、地域社会の課題を解決するためのスキルを実践的に修得する機会を提供する。

公務員志望者には、学科専門科目のうち展開科目「キャリア」区分科目を中心に公務員試験対策を行う。

・4年次では、学科専門科目のうち基本・展開科目「ゼミナール」である「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」または「キャリア演習Ⅲ・Ⅳ」を必修科目とし、4年間の学修を集大成として、社会科学分野の専門的知識・技能及び学科固有の DP である能力を総動員し、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」では自分だけの独創性のある研究論文を執筆する。「キャリア演習Ⅲ・Ⅳ」では、社会科学分野の専門的知識・技能や学科固有の DP である能力の達成度を確認しつつ、間近に迫った卒業を前に、社会人として求められる汎用的能力の実践を行い、実社会での専門的知識・技能を応用する力の養成に軸を置いた教育を行う。

教育方法

オン・キャンパスとオフ・キャンパスの両方を用いて充実した教育を実施する。オン・キャンパスでは、アクティブ・ラーニングを用いた講義科目や演習科目を行う。オフ・キャンパスでは、3年次の選択必修科目として、自治体やさまざまな業種の企業へのインターンシップを実施する科目や学内外におけるボランティアを実施する科目を設定し、より実践的な教育を行う。以上により、学生の主体的学修態度を引き出し、自律的学修者の育成を行う。

・スポーツマネジメント学科

スポーツマネジメント学部では、次の方針でカリキュラムを編成します。

カリキュラム編成の方針

CP1-1：自らの強みを発見し、それを基にキャリア意識を形成することができるように、各年次のゼミナールを通して自己理解が可能となる教育内容及び教育手法を採用する。

CP1-2：最後までやり抜く力を養成するために、各授業科目において自らの頭で考えさせる深い学びを可能とする課題等を課すとともに、リーダーシップや調整力を養成するために、グループワークによる一定の成果を出す教育手法を積極的に採用する。

CP1-3：現代社会における課題発見・課題解決能力を養成するために、課題解決型（PBL 型）学習を実施する科目をカリキュラムの基軸に設定する。

CP2-1：スポーツマネジメント分野の基礎～発展的知識・技能を修得し、実社会でそれらを実践していけるように、社会とのつながりを重視した学修を可能とするカリキュラムを展開する。

CP2-2：スポーツマネジメント分野の基礎～発展的知識・技能を修得し、それらを統合することで新たな視点でスポーツを捉え、それを広く社会に対し発信できるなど、単なる知識・技能の修得にとどまらない幅広い学修を可能とするカリキュラムを展開する。

CP3：社会人として当然に求められる汎用的能力を育むために、教養科目及び学科専門科目を通じて、文章読解力、文章表現力、協調性・協働する力、基礎的 IT スキル、プレゼンテーション能力、異文化理解力・外国語能力等の汎用的能力の養成を意識した教育内容及び教育手法を採用する。

CP4：本学の建学の精神である「智と愛」の下、生涯を通じて学び続ける力を育成するために、学生の主体的学修態度を促すアクティブ・ラーニング等の教育手法を積極的に採用する。また、他者への共感力を持って行動できる高い人間性を育むために、グループワークでの学修やオフ・キャンパスでの学修を充実させ、他者と協働する機会を積極的に設ける。

教育内容

・基本的な教育体系として、1・2年次に「教養科目」、「基礎科目」と「学科専門科目」における基本科目を履修し、スポーツマネジメントに関わる基礎的及び標準的な知識・技能の土台作りとコミュニケーション能力などの基本的な人間力の育成を図る。3・4年次では、「学科専門科目」内の展開科目を履修することで、発展的及び応用的な知識・技能に加え、学生自身がスポーツに関わる課題を自らが見つけ、それらを解決する能力の育成

を図る。また、仲間と協調し、その中でリーダーとなれるような、より精練された人間性の育成を目指す。

・1年次では、専門科目のうち基礎科目である「文章表現法Ⅰ・Ⅱ」を必修とし、在学中の専門科目の学修は勿論のこと、卒業後も不可欠な能力である文章リテラシーを修得し、大学学修における基礎・基盤を構築することを目指す。学科基本科目である「スポーツマネジメント論」及び「現代スポーツ概論」を必修とし、スポーツマネジメント分野におけるビジネス・産業領域および健康・科学領域の両領域に関して基礎的知識を身につける。また、実技・実習科目である「スポーツ方法・体づくり運動」を必修とし、体づくりを学ぶとともに、トレーニングを通じた集団行動のための他者と協働する力を育み、自身の身体に対して理解を深め、生涯スポーツに向けた礎を築く。さらに、初年次教育として、「基礎演習」を必修に据え、教員間及び学生間のつながりを通じて、コミュニケーション能力を高めるだけでなく、課題解決型（PBL 型）学習の実施によって、基本的な課題発見と解決能力の育成を目指す。

・2年次では、必修科目である「プレゼミ」において、スポーツマネジメント分野の基礎的な専門知識・技能の確認を行うとともに、専門知識を応用する力の育成や自らの強みを発見し、早期のキャリア意識を醸成する。なお、2年次においては、学科専門科目に必修科目は設置していないが、これは学生自身が、3・4年次に向け、自由な意思の下、自らの方向性を様々に探索できるようにするためである。

・3年次では、展開科目である「スポーツマネジメント実習Ⅰ・Ⅱ」を必修科目として設定し、インターンシップを実施することで、スポーツマネジメント分野の知識・技能の実践やオフ・キャンパスの学修を通じて、社会人として必要な汎用的技能の養成等を行う。また、必修科目である「総合演習Ⅰ・Ⅱ」では、4年次の「卒業研究」に向け専門的知識・技能を深めるとともに、応用力及び統合力の養成を行う。さらに、課題解決型（PBL 型）学習を行う必修科目を配置し、グループワークや学外の人との関わりから社会性を育むとともに、地域社会の課題を解決するためのスキルを実践的に修得する。

・4年次では、必修科目である「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」において4年間の学修を集大成化とするとともに、実社会で求められる応用力や統合力を修得する。

教育方法

講義科目では、主に座学によって学修の基礎となる確かな理論・知識を身につけさせることを目指す。開かれた教育を志し、座学だけに偏ることなく、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れ、実践力を磨いていく。講義科目を通して身につけた基礎的な理論・知識を実践するために、演習科目及び実習科目を通じて、より発展的・応用的な理論・知識の獲得と課題の発見・解決能力の育成を目指す。成績評価にはGPA 制度を活用し、学生自身が学習成果を確かめ、学習意欲の向上、計画的に科目履修ができるようにする。各科目における配当年次については、基礎から応用、発展へと段階的に学べる履修モデルの組み立てができるようにカリキュラムを編成し、講義と演習・実習の割合や組合せを考慮している。1年次から、課題解決型（PBL 型）学習を「基礎演習」の中で実践し、オン・キャンパスだけでなく、オフ・キャンパスにおける学修を促進させ、より実践的な教育を行う。2年次では、学生は主体的に自分の将来の可能性を探り、他方で、教員は学生自身が将来の方向性を見失わないようにサポートを行う。3年次・4年次では、大学教育の集大成としてゼミナールでの卒業研究に取り組み、課題の発見・解決までを学生自身が一人でやり遂げられる実践力の定着を図る。なお、キャリア教育に関しては、入学年次より開始し、社会人としての常識や基礎的なマナーを身につけさせ、3年次の「スポーツマネジメント実習」によるインターンシップを通じて学生に実践の場を体験学習させる。このような入学年次からの一貫した支援体制を構築することで、卒業後の進路に関して、学生一人ひとりが早期のキャリア意識を形成できるように促していく。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：<https://www.shobi-u.ac.jp/about/policy/educational/>）

(概要)

【各学部共通】

本学は、建学の精神である「智と愛」に基づき、本学が教育の基軸にすえる高い人間力を育むための全人教育と幅広い知識・技能を背景にそれらを社会で実践するための実践力教育を積極的に受容する資質・能力を有し、以下に掲げる学力の3要素を備えた人物を受け入れます。

このような適性のある学生を選抜するために、多様な選抜方法を適切に実施します。

(学力の3要素)

知識・技能

- 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- 専門分野の修学に必要な科目の基本的な知識・技能を有している。

思考力・判断力・表現力

- 汎用的能力を有し、自らの考えを整理・表現するための基礎となる思考力・判断力・表現力を有している。

態度・意欲

- 何事に対しても知的好奇心を持ち、社会課題に対して主体性を持って最後まで取り組む態度を有している。
- 高い共感力の下、他者と協力して何事にも積極的に取り組む意欲を有している。

・情報表現学科

求める人材像

芸術情報学部情報表現学科では、養成する人材像及び教育課程を踏まえ、次のような学生を受け入れます。

AP1-1：情報表現の学びを通じて、物事の本質を見抜く審美眼を身につけたい人。

AP1-2：情報表現の学びを通じて、独創的な発想力や創造力を身につけたい人。

AP1-3：情報表現の学びを通じて身につけた発想力や創造力をカタチにし、それを社会に発信することで新しい価値を生み出したい人。

AP1-4：情報技術力を修得し、社会課題に関するデータを収集し、それを分析することで社会に貢献したい人。

AP1-5：先端的な情報表現方法を修得し、独創的な表現を通じて、人々の心を動かし感動させたいと考えている人。

AP2-1：高等学校の教育課程の基礎的な知識・技能を幅広く修得しており、入学後に情報表現分野の知識・技能を幅広く身につけ、それを社会で実践していきたい人。

AP2-2：高等学校の教育課程の基礎的な知識・技能を幅広く修得しており、入学後に身につけた情報表現分野の知識・技能を組み合わせることで新たな価値やアイデアを創造したい人。

AP3：基礎的な論理的思考力により、自らが直面した課題を自覚し、その解決に向けて適切に判断ができ、自分の意見や考えをわかりやすく表現できる人で、入学後に情報表現の学びを通じて社会人として当然に求められる汎用的能力を身につけたい人。

AP4：建学の精神「智と愛」の下に、情報表現分野に興味・関心を持ち、多様な人々と関わり合いながら主体的に学ぶ姿勢で、情報表現を探究していこうと考えている人。

入学者選抜方式

芸術情報学部情報表現学科ではアドミッション・ポリシーに沿った入学者を受け入れるため、下記のような入学者選抜を実施することで、多様な方法、多元的な尺度によって、入学志願者の基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働し学習する態度、学修に対する意欲、適性等を総合的に評価・判定します。

- 一般選抜
- 学校推薦型選抜（専願）
- 総合型選抜（専願）
- 特別選抜（帰国生徒選抜、留学生選抜、社会人選抜）

・芸術表現学科

求める人材像

芸術情報学部芸術表現学科では、養成する人材像及び教育課程を踏まえ、次のような学生を受け入れます。

AP 1-1：芸術表現の学びを通じて、物事の本質を見抜く審美眼を身につけたい人。

AP 1-2：芸術表現の学びを通じて、独創的な発想力や創造力を身につけたい人。

AP 1-3：芸術表現の学びを通じて身につけた発想力や創造力をカタチにし、それを社会に発信することで新しい価値を生み出したい人。

AP 1-4：情報技術力を修得し、社会課題に関するデータを収集し、それを分析することで社会に貢献したい人。

AP 1-5：芸術表現の専門性を深め、自分だけの独創的な表現行為を通じて、人々の心を動かし感動させたいと考えている人。

AP 2-1：高等学校の教育課程の基礎的な知識・技能を幅広く修得しており、入学後に芸術表現分野の知識・技能を幅広く身につけ、それを社会で実践していきたい人。

AP 2-2：高等学校の教育課程の基礎的な知識・技能を幅広く修得しており、入学後に身につけた芸術表現分野の知識・技能を組み合わせることで新たな価値やアイデアを創造したい人。

AP 3：基礎的な論理的思考力により、自らが直面した課題を自覚し、その解決に向けて適切に判断ができ、自分の意見や考えをわかりやすく表現できる人で、入学後に芸術表現の学びを通じて、社会人として当然に求められる汎用的能力を身につけたい人。

AP 4：建学の精神「智と愛」の下に、芸術表現分野に興味・関心を持ち、多様な人々と関わり合いながら主体的に学ぶ姿勢で、芸術表現を探究していこうと考えている人。

入学者選抜方式

芸術情報学部芸術表現学科ではアドミッション・ポリシーに沿った入学者を受け入れるため、下記のような入学者選抜を実施することで、多様な方法、多元的な尺度によって、入学志願者の基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働し学習する態度、学修に対する意欲、適性等を総合的に評価・判定します。

- 一般選抜
- 学校推薦型選抜（専願）
- 総合型選抜（専願）
- 特別選抜（帰国生徒選抜、留学生選抜、社会人選抜）

・総合政策学科

求める人材像

総合政策学部では、養成する人材像及び教育課程を踏まえ、次のような学生を受け入れます。

AP 1-1：社会科学分野の学びを通じて、さまざまな社会課題を発見し、それを解決して、広く社会に発信することで社会貢献をしたい人

AP 1-2：社会科学分野の学びを通じて、論理的思考力を身につけたい人。

AP 1-3：社会科学分野の学びを通じて、自分だけの強みを発見し、それを発揮して社会で活躍したいと考えている人。

AP 2-1：高等学校の教育課程の基礎的な知識・技能を幅広く修得しており、入学後に社会科学分野の知識・技能を幅広く身につけ、それを社会で実践していきたい人。

AP 2-2：高等学校の教育課程の基礎的な知識・技能を幅広く修得しており、入学後に身につけた社会科学分野の知識・技能を統合することで新たな視点で社会課題を発見し、広く社会一般に対して問題提起を行うなど社会を主導する人材を目指す人。

AP 3：基礎的な論理的思考力により、自らが直面した課題を自覚し、その解決に向けて適切に判断ができ、自分の意見や考えをわかりやすく表現できる人で、入学後に社会科学分野の学びを通じて、社会人に当然に求められる汎用的能力を身につけたい人。

AP 4：建学の精神「智と愛」の下に、社会科学分野に興味・関心を持ち、多様な人々と関わり合いながら主体的に学ぶ姿勢で、社会科学を探究していこうと考えている人。

入学者選抜方式

総合政策学部ではアドミッション・ポリシーに沿った入学者を受け入れるため、下記のような入学者選抜を実施することで、多様な方法、多元的な尺度によって、入学志願者の基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働し学習する態度、学修に対する意欲、適性等を総合的に評価・判定します。

- 一般選抜
- 学校推薦型選抜（専願）
- 総合型選抜（専願）
- 特別選抜（帰国生徒選抜、留学生選抜、社会人選抜）

・スポーツマネジメント学科

求める人材像

スポーツマネジメント学部では、養成する人材像及び教育課程を踏まえ、次のような学生を受け入れます。

AP1-1：スポーツマネジメント分野の学びを通じて、自分だけの強みを発見し、それを活かして社会で活躍したい人。

AP1-2：スポーツマネジメント分野の学びを通じて、リーダーシップを身につけるとともに、物事を最後までやり抜く力を身につけたい人。

AP1-3：スポーツマネジメント分野の知識・技能を基に、自らの目でさまざまなスポーツ課題を発見し、多様な人々を巻き込み、協働しながら解決することで、スポーツ振興に貢献したい人。

AP2：高等学校の教育課程の基礎的な知識・技能を幅広く修得しており、入学後にスポーツマネジメント分野の知識・技能を幅広く身につけ、それを社会で実践していきたい人。

AP3：基礎的な論理的思考力により、自らが直面した課題を自覚し、その解決に向けて適切に判断ができ、自分の意見や考えをわかりやすく表現できる人で、入学後にスポーツマネジメント分野の学びを通じて、社会人として当然に求められる汎用的能力を身につけたい人。

AP4：建学の精神「智と愛」の下に、スポーツマネジメント分野に興味・関心を持ち、多様な人々と関わり合いながら主体的に学ぶ姿勢で、スポーツを探求していこうと考えている人。

入学者選抜方式

スポーツマネジメント学部ではアドミッション・ポリシーに沿った入学者を受け入れるため、下記のような入学者選抜を実施することで、多様な方法、多元的な尺度によって、入学志願者の基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持ち多様な人々と協働し学習する態度、学修に対する意欲、適性等を総合的に評価・判定します。

- 一般選抜
- 学校推薦型選抜（専願）
- 総合型選抜（専願）
- 特別選抜（帰国生徒選抜、留学生選抜、社会人選抜）

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：尚美学園大学 Web ページ内の「情報公開－大学基本情報(<https://www.shobi-u.ac.jp/about/disclosure/>)」で公表している。

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
芸術情報学部	－	33 人	16 人	2 人	人	人	51 人
総合政策学部	－	12 人	6 人	人	人	人	18 人
スポーツマネジメント学部	－	7 人	6 人	1 人	人	人	14 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		240 人					240 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.shobi-u.ac.jp/about/disclosure/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
芸術情報学部	400 人	500 人	125.0%	1,700 人	1,870 人	110.0%	50 人	16 人
総合政策学部	100 人	60 人	60.0%	400 人	283 人	70.8%	—人	6 人
スポーツマネジメント学部	160 人	235 人	146.9%	640 人	857 人	133.9%	—人	2 人
合計	660 人	795 人	120.5%	2,740 人	3,010 人	109.9%	50 人	24 人
(備考) 総合政策学科及びスポーツマネジメント学科への編入学は、収容定員に対する欠員の状況を勘案して行うものとする。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
芸術情報学部	384 人 (100%)	4 人 (1.0%)	324 人 (84.4%)	56 人 (14.6%)
総合政策学部	89 人 (100%)	1 人 (1.1%)	70 人 (78.7%)	18 人 (20.2%)
スポーツマネジメント学部	162 人 (100%)	0 人 (0.0%)	151 人 (93.2%)	11 人 (6.8%)
合計	635 人 (100%)	5 人 (0.8%)	545 人 (85.8%)	85 人 (13.4%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項）				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画は、シラバスとして毎年3月に尚美学園大学 Web ページ上で公表している。 担当教員は計画など授業全体をデザインし、明確な目標や内容をシラバスに記して学生に提示している。学生はこれにより、履修決定の際の参考とするとともに、毎回の授業目標の確認、準備学習や復習、授業評価の基準を理解すること等に利用している。 シラバスの内容は、大学設置基準及び中央教育審議会答申の用語集に記された内容（授業の方法及び内容、授業の回数と計画、到達目標、授業評価の方法や基準、準備学習や復習等の授業外での学習、教科書と参考文献、履修方法、実務経験のある教員の記載等）に準拠するよう作成の手引き並びに「教員ハンドブック」の要領に沿って作成している。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準は学則で定め、尚美学園大学 Web ページ内の「学生ハンドブック」及び「大学基本情報」に掲載している。

授業計画書（シラバス）の成績評価の方法と基準により、厳格かつ適正な評価を行い、学期末総合点を算出（0～100 点）している。総合点の 100～60 点を合格として単位を付与し、59 点以下を不合格としている。また、原則出席回数が 2/3 に満たない場合、期末筆記試験を欠席した場合及びレポート試験の未提出があった場合には点数評価をしない規定を設けている。成績評価の基準は 100～90 点（秀）、89～80 点（優）、79～70 点（良）、69～60 点（可）、59 点以下（不可）と到達度の段階を示している。

卒業（学位授与）は、本学学部にて 4 年以上在学し、科目区分の条件を満たした上で、卒業要件 124 単位以上を修得したものについて、教授会の議を経て、学長が認定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
芸術情報学部	情報表現学科	124 単位	有・無	単位
	音楽表現学科	124 単位	有・無	単位
	音楽応用学科	124 単位	有・無	単位
	舞台表現学科	124 単位	有・無	単位
	芸術表現学科	124 単位	有・無	
総合政策学部	総合政策学科	124 単位		

スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	124 単位		
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.shobi-u.ac.jp/about/campus/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
芸術情報学部	情報表現学科	1,000,000 円	250,000 円	460,000 円	教育充実費(年額)400,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
	音楽表現学科	1,250,000 円	250,000 円	460,000 円	教育充実費(年額)400,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
	音楽応用学科	1,250,000 円	250,000 円	460,000 円	教育充実費(年額)400,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
	舞台表現学科	1,250,000 円	250,000 円	460,000 円	教育充実費(年額)400,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
	芸術表現学科	1,250,000 円	250,000 円	460,000 円	教育充実費(年額)400,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
総合政策学部	総合政策学科	750,000 円	200,000 円	310,000 円	教育充実費(年額)250,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	800,000 円	200,000 円	340,000 円	教育充実費(年額)280,000 円 休学在籍料(学期ごと)30,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) ●学生支援制度の概要 本学では、学生一人ひとりが安心して学び、将来の目標に向かって成長できるよう、さまざまな支援制度を整えています。 ・アドバイザー制度 学生一人ひとりに専任教員がつき、履修状況や個性、将来の夢を踏まえながら、学業・学生生活・進路についてマンツーマンで助言します。GPA などの客観的な成績も参考にしながら、夢の実現に向けた履修計画を立て、学生の能力を最大限に活かせるよう支援します。 ・オフィスアワー 全教員が週に1コマ90分、学生と自由に交流できる時間を設けています。学生はこの時間を活用して、教員の専門分野や研究内容について直接話を聞くことができ、興味のある分野への理解を深められます。 ・学生総合アシスト室 学業上の困難や学生生活に関する悩みについて、担当スタッフが相談に応じます。また、障害を含む多様な特性や個々の状況に配慮し、自立した学生生活を送れるよう、学生課・カウンセリングルーム・保健室などの関係部署が連携して支援を行います。 ・海外語学研修 長期休暇を利用して語学教育プログラムを実施しています。海外の学生との交流や体験学習を通して、語学力だけでなく異文化理解も深めることができます。なお、海外研修は卒業単位として認定される場合があります。 ・国際交流室 外国人留学生に対し、日本での生活支援、日本語学習支援、在留手続きに関する支援などを行い、充実した学生生活を送れるようサポートしています。また、日本人学生を含む全学生を対象に、語学教育支援や海外との学術交流も実施しています。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) ●キャリア・就職課（キャリアセンター）による支援 学生の進路・就職支援の拠点として、音楽や情報、行政やスポーツなどの志望業界別に学生個別の進路に添った活動へのアドバイスをを行っている。3年生進級時には、個別面談を実施し、現時点での進路希望を調査した上で、以降のアドバイス（履歴書添削や模擬面接など）を行う。また、留学生には、国際交流室と連携しサポートを行っており、学科の学びに関連

した新規企業の求人開拓にも重点を置いている。主な支援内容は以下のとおり。 ・キャリアス UC 尚美による情報提供 大学宛に届いた求人情報、インターンシップ情報の他、就活マニュアル動画などが閲覧できる。 ・キャリア・カウンセリング／個別相談対応 キャリアコンサルタントの国家資格を持つスタッフ 4 名が常駐し、個々に合った進路選択や就職活動のための個別相談を実施している。 ・キャリアサポート関連講座の実施／就職対策講座の企画運営 就職活動をする上で不可欠な「エントリーシート」「履歴書」の書き方をはじめ、ビジネスマナーや面接対策など、就職活動で身に着けておきたい知識や能力についてのセミナーや講座を開催する。 ・業界・職種セミナーおよび会社説明会の企画運営 各業界・企業の現状をより良く理解するために、現場で活躍している方を招いての講座を行う「業界・職種セミナー」や人事採用担当者の方から各企業の採用説明を行う「会社説明会」を開催する。なお、毎年 2 月には、3 年生を対象とした「就活キックオフイベント」と銘打った 30 社を超える企業を招いての学内合同企業セミナーを開催している。 ・進路・就職情報検索コーナーの開設 企業からの求人情報および就職関連サイトからのさまざまな情報を公開すると共に、公務員情報や進路・就職関連図書の閲覧、貸出しを行う。 ・インターンシップ支援 キャリア形成、就職に係る教員組織と連携し、受入れ企業の開拓から参加学生とのマッチング、事前・事後研修、報告会など、大学独自のインターンシップの運営を行っている。	c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ・カウンセリングルーム 学生のメンタルヘルスを支えるため、資格を持つカウンセラーが常駐するカウンセリングルームを設置しています。授業のことや友人関係、自分自身の悩み、学業上の不安など、さまざまな相談に対応しています。 ・保健室 学内でのけがや急な体調不良への応急対応に加え、健康チェックや健康相談も行っています。体調を整える方法を知りたいときや、健康面で不安を感じたときにも利用できます。保健室では、看護師の資格を持つスタッフが対応します。 ・校医（産業医） 医師による健康相談を受けることができます。来校日については、保健室前および事務局前の掲示でお知らせしています。校医との面談を希望する場合は、1 週間前までに保健室へ申し出て、相談内容や症状などを確認してもらう必要があります。 ・学生総合アシスト室 大学生活の中で、どこに相談すればよいかわからないことや、不安・困りごとについて気軽に相談できる総合窓口です。相談内容を確認したうえで、適切な窓口を案内します。 ・トレーニングルーム 健康の維持や体力の向上を目的として、トレーニングルームを設置しています。担当者が学生一人ひとりに合わせたプログラムを作成し、機器の使い方もサポートするなど、トレーニングジムのような設備と機能を備えています。利用にあたっては、安全確保のために講習を受け、担当者の指導のもとで使用する仕組みになっています。	

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：尚美学園大学 Web ページ内の「情報公開－大学基本情報(<https://www.shobi-u.ac.jp/about/disclosure/>)」で公表している。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F111310102030
学校名（〇〇大学 等）	尚美学園大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人尚美学園大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		575人（297）人	549人（298）人	－
内 訳	第Ⅰ区分	193人	186人	
	（うち多子世帯）	（ 37人）	（36人）	
	第Ⅱ区分	80人	85人	
	（うち多子世帯）	（ 17人）	（－人）	
	第Ⅲ区分	78人	47人	
	（うち多子世帯）	（19人）	（－人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	62人	59人	
	区分外（多子世帯）	162人	172人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－
合計（年間）				610(330)人
（備考） 休停止者を含む				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	0人	0人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当)	11人	0人	0人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	0人	0人
計	25人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	-
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	-
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	-	0人	0人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	-	0人	0人
GPA等が下位4分の1	73人	0人	0人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	79人	0人	0人
(備考) 合計は実人数。複数項目に当てはまる学生はそれぞれの項目にて計上。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。